

シリーズ掲載

言語活動の充実に向けたはじめの一歩



「学びかけのある魅力的な学習課題づくり」Vol. 2

中学歴史の授業づくりのヒント～小・中の教科書の比較～

《中学校歴史の古代「律令国家の成立と平城京」を例に》

この時代の学習で思い浮かぶのが、聖武天皇による大仏造営ですね。小学校で使用している教科書を見ると、「聖武天皇は、どうして奈良の大仏をつくらせたのでしょうか。」という問い合わせがあり、その理由を追究するという流れになっています。(『新しい社会 6年上』東京書籍)

もしも、これと同じような問い合わせで中学校でも授業が行われたとすれば、生徒たちは小学校と同じ学習を繰り返し行うことになってしまいます。

ご存知の通り、



小学校では人物学習が中心

ですが、

中学校では時代の特色を理解する学習が中心

となります。

中学校で使用している教科書を見ると、「律令国家はどのようにしてできあがったのでしょうか。」という問い合わせがあり、「平城京という大きな都をつくることができた理由を簡単に説明しましょう。」という課題が提示されています。そして、和同開珎などの貨幣の発行について、写真資料が掲載されるなど広く紙面を割いて紹介されています。(『新しい社会 歴史』東京書籍)

小・中の教科書を比較してみると、中学校での授業づくりが見えてきます。

それは、



古代とは、初めてお金を発行した時代であり、お金を発行して得た収入が都づくりに用いられたこと。また、お金を発行することができたのは、強制的に使用させることができる強力な中央集権体制が構築されていたからであり、それが、古代、特に奈良時代の特色であるということ。

をとらえさせることが、授業をつくる上で重要であるということです。

課題づくりをするにあたっては、まず初めに、小学校での学習内容を活用しながら、我が国が律令国家として形づくられていったことを大きくとらえさせます。そして、律令国家の確立とお金の発行とのかかわりについて考えさせることにより、

『なぜ、和同開珎が発行されたのだろうか』

という学習課題をつくることができます。

導入・展開でお金を発行した理由を考えさせることによって、時代の特色を理解させます。さらに、身に付けた知識を使って都づくりや大仏造営が可能な理由を考えさせます。導入から展開、まとめ、さらに発展まで一つの授業として成立することになります。

このような学習展開により、東大寺の造営もお金の発行で得る収入（銭貨発行収入）に頼っていたことが分かり、都づくりと大仏造営は、お金の発行で得る収入によって行われたという共通点があることもとらえることができるでしょう。

★まとめ★

小・中の教科書を比較してみると、「どんな授業を行えばよいのか」についてのヒントが見えてきます。そこから、中学校ならではの“学びがいのある魅力的な学習課題づくり”が始まります！

次回は、導入時の資料提示において、歴史的事象を視覚化する工夫から学習課題をつくることを紹介します。単元は、小学校6年歴史「源頼朝と鎌倉幕府」です。



これは、「源頼朝と鎌倉幕府」の単元における知識の構造図です。

〔中心概念〕に迫るために、人物肖像画を効果的に使って学習課題づくりをします！

〔ねらい〕

源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まつたことをとらえさせる。

〔中心概念〕

鎌倉幕府は幕府と武士のつながりが強く、武士の支持が幕府の基盤であった。

〔基本的事項〕

源頼朝は、関東武士の助けを得て、平氏を倒し、鎌倉に幕府を開いた。

〔具体的事項〕

○ 平清盛の政治

- 娘を天皇と結婚
- 高い地位を独り占め
- 貴族的なくらし
- 荘園を集める
- 平氏でないものは人ではない

○ 源平の戦い

- 頼朝の挙兵
- 義経の活躍
- 平氏の滅亡

○ 鎌倉幕府の成立

- 征夷大将軍
- 守護・地頭
- 鎌倉の位置と地形

○ 鎌倉幕府と武士

- ご恩と奉公「いざ鎌倉」
- やぶさめや農耕
- 鉢の木物語

〔ねらい〕

鎌倉武士たちは、二度にわたる蒙古の来襲を退けたが、鎌倉幕府の滅亡につながった。

○ 元との戦い

- 北条時宗と元の使い
- 博多湾沿岸の石壁
- 蒙古襲来絵図
- 文永・弘安の役

○ 鎌倉幕府の滅亡

- 竹崎季長の訴え